



撮影: 秋野 深 ©Jin Akino

偉大なる

シルクロード芸術特別展

2008年10月5日(日)~26日(日)

奈良公園シルクロード交流館

9:00~17:00 (入館は16:30まで)

10月6日(月)/10月14日(火)/10月20日(月)は休館

入場無料

主催: ウズベキスタン文化・芸術フォーラム基金/駐日ウズベキスタン共和国大使館

共催: 奈良県/読売新聞大阪本社/なら・シルクロード博記念国際交流財団

協力: 在大阪ウズベキスタン共和国名誉領事館/文化財保護・芸術研究助成財団/古代オリエント博物館/テルメズ(中央アジア)仏教発掘調査後援会

後援: 外務省/経済産業省/日本・ウズベキスタン協力委員会/日本ウズベキスタン友好協会/日本・ウズベキスタン経済合同委員会



読売新聞大阪本社



ウズベキスタン文化・芸術フォーラム基金駐日代表部

<http://www.uzf.or.jp>

偉大なるシルクロード特別展

東西文明が交差するシルクロードの要衝として繁栄した中央アジア、ウズベキスタン共和国。そこでは、いにしえより絹や綿花の生産がさかに行われ、さまざまな染織の文化が開花しました。北バクトリア地方において発見された2-3世紀の絹織物の一部は、ウズベキスタンの染織の歴史の深さを物語っています。今日、ブハラ、フェルガナ渓谷のマルギラン、ナマンガンは、手織りで作られた美しい絹織物の中心地として、ウズベキスタン国内はもとより、世界中から大きな関心を集めています。本展ではこの地域の染織を中心に、ウズベキスタンの文化と芸術をご紹介します。



イカット (中央アジアでは、アドラスまたはアトラス、カナウスといわれる)

ウズベキスタンには、緯糸に綿を用い、経糸に括って染めた絹を用いた縦縞のアドラスと、経糸・緯糸ともに絹を使用したアトラス、カナウスがある。いずれも鮮やかな色彩で、文様は星、矢、流れる雲などをデザインした縞模様である。アドラスでは男女のチャパン、女性のクイリャクを作製した。アトラスはエミル(君主)一族にのみ許され、ハン(王)・アトラスとも呼ばれた。今日ウズベキスタンの女性は、アトラスでスモック風のクイリャクを作って着用している。

金糸刺繍

ウズベキスタンの一部地域にあった金糸刺繍は19世紀中頃、ブハラ・エミル城内の宮廷直営工房で統合された。金糸刺繍の製品はエミル一族および側近用であったが、功績のある臣下にも下賜された。皮や厚紙を芯に金糸で刺し込んで描かれた立体的な植物文や幾何学文をチャパンの袖、襟、裾、背の部分に、あるいは連続模様をチャパンの全面に施した。またターバン、額飾り(ベシヨナバンド)、ブーツ(マフシ、カヴシ)などにも用いられる。



スザニ

スザニ(ベルシャ語で針の意)と呼ばれる装飾刺繍の布は、ウズベキスタンで最も好まれる工芸品の一つである。その色合い、文様、刺繍の技法により、作られた地域や用途がわかる。大型のものは数枚の布を数人で分担して刺繍し、縫い合わせて仕上げる。星や月、太陽、草花、ザクロなどの文様に人々の祈りと願いが込められている。重ねた寝具の覆い、壁掛け、祈祷用の敷物(ジョイナマス)などの他、初夜の花嫁用ベッドシーツ(レイジョ)にも用いられる。



奈良公園シルクロード交流館

〒630-8211 奈良市雑司町469

近鉄奈良下車東へ徒歩約15分

JR奈良駅から奈良交通バス「大仏殿春日大社前」下車東へ徒歩約5分

お問い合わせ:

(財)なら・シルクロード博記念国際交流財団

TEL:0742-27-2438 FAX:0742-24-1706

シルクロード交流館ホームページ:

<http://www.pref.nara.jp/kanko/silk/index.html>

